

第2回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会 議事録

1 日時

平成27年12月16日（水） 15時00分～17時00分

2 出席者

（委員）小林勝衛委員長、山田睦子委員長職務代理者、小池幸夫委員、堀信幸委員、味戸裕幸委員、佐藤恭央委員、安藤政則委員、古川雄二委員、高橋裕三委員、三村成子委員、野崎靖之委員、長久保重行委員

（泉崎村）村長、副村長、教育長（以下事務局）

総務課長、総務課企画財政グループ長、総務課企画財政グループ主任主査

3 議題

（1）泉崎村人口ビジョン（素案）について

（2）泉崎村まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）（素案）について

（3）今後のスケジュール

4 決定事項・確認事項

（1）議題（1）～（2）について、事務局から説明があった。

（2）地域創生・人口減少対策で取り組むべき点などについて、各委員から意見が出された。

（3）この委員会では、平成28年1月21日開催の第3回委員会で、泉崎村人口ビジョンの最終確認と総合戦略の内容の確認、平成28年2月22日開催の第4回委員会で総合戦略の最終確認をする予定との説明が事務局からあった。

5 発言者名、発言者ごとの発言内容

以下のとおり

司会(総務課企画財政グループ長)	<p>ー開式ー</p> <p>本日は大変お忙しい中第2回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会にお集まりいただきましてありがとうございます。</p> <p>本日の進行役、総務課企画財政グループ緑川でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、ただ今から第2回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会を開催いたします。</p> <p>始めに、泉崎村長久保木正大よりご挨拶申し上げます。</p>
村長	<p>ーあいさつー</p> <p>改めまして、皆さんこんにちは。</p> <p>大変公務の忙しい中お集まりを頂きまして、心より感謝を申し上げます。</p> <p>今般、第2回の地域創生、そして、人口減少対策委員会の開催のご案内をしたところ、みなさんのご出席を頂きまして、誠に感謝申し上げます。</p> <p>第1回、先般、実施いたしましたけども、委員の皆さんは色々な業界、分野から賛同していただいて委員になっていただきました。</p> <p>その中で、これから何度か会議を持たせていただいて、それぞれの立場から思い切った発想のもとに議論をしていただいて、最終的に大筋のところを会議でまとめていただければありがたいなと思います。</p> <p>それから、皆さんにお集まりいただいて議論いただいた中で、どれだけ実施できるかと、現実問題として、色々なことを話し合っていたきたいなと、それもいま、日本全体の問題でもありますし、この県南地区は県南地区で同じような悩みを抱えているということで地域性も似ていますから、こういった組織も色々な自治体で実施しております。</p> <p>そう言った意味では、比較的同じような方向の意見が出てくるのかなと思っておりますけども、その中で、独特の地域にあった発想で何かが出来ればありがたいかなと思っております。</p> <p>それから今日もここで会議を進めていただいて、食事をしながらまた気楽な雰囲気の中で、ざっくばらんな意見を交わしながら、なにかアイデアが出てくるのかなと、そんな雰囲気の中で何でも言えるような、あるいは自分の思っていることをみんなの前で吐き出していただいてそれが非常に面白いアイデアとして結びつけば最高かなと思います。今日は、こちらで食事を出させて頂きますけども、</p>

その中にですね。さつき温泉のすぐ傍に池が二つありますけども、あそこは、地元の建設会社の福南建設さんの会長さんが、会社でやられているのか、個人でやられているのかちょっと分らないのですが、ナマズの養殖をしたいということで、何万匹か放流したのですね。半年もまだ経っていないくらいなのですが30cmくらいになったということで、その試食も兼ねて、皆さんにぜひ味わっていただきたいと。

これも一つの地域活性化なのだろうかと、地域の人が、行政ばかりで色んな施策をするだけでなく、各個人が色んなアイデアで地域を盛り立てよう何か特徴を出そうという一人一人の多い所がやはり活性化する。そういった地域になろうと思います。

その一環でナマズの養殖を始めたとして、この管内では、福島県でも珍しい。そういった変わった発想で、ありふれているものでなくて、独特の発想をしていくことによって、未来が見えてくるのかなという思いで、今日は十分味わっていただきたいなど。

その他、ここからもちらっと見えるかと思いますが、パークゴルフ場ですね。夏にオープンしまして、これはまた浜の方は非常に盛んですが、まだまだ、この地区、県南地区も含めてまだまだこういう施設が不足しています。

これからブームの兆しがありまして、今日も50人くらいプレーヤーがラウンドしておられて温泉を楽しみながら利用していたということでもありますけども、こういったことも泉崎村を知ってもらう、あるいは、この中でパークゴルフ場を利用してもらう中で活性化して明るいムード作りになるのかなと、色々なアイデアの積み重ね、そんなことを皆さんの忌憚のない意見で集約できればありがたいかなと思っています。

行政としてお金のかかる場所もございまして。そんなところは、私はこの対策委員会で色々な少子化対策の提言があれば積極的にですね。

この委員会を中心にして方向性を決めて、我々も行政として手助けをしていく方向に行きたいという思いを強く持っておりますので、そんなことも含めて議論していただければありがたいと思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

ありがとうございます。続きまして、小林委員長様からご挨拶を頂きたいと思っております。

司会

小林委員長

改めまして、皆さん、こんにちは。先月の第1回目の会議にもご

	<p>参集いただきまして、貴重な意見を頂きまして、先月の会議に都合が悪くて欠席された方もおりましたけども、今日は、東邦銀行さん、短大の先生、商工会長さんとお出でいただきまして、今日は先月皆さんから貴重な意見を頂きましてそれを基にですね。</p> <p>村の方としては、素案を作ってくださいまして、それを皆さんにお示しをいたしまして、泉崎の人口減少を何とか歯止めをかける得策はないものかと皆さんに議論を頂ければ幸いかなと感じております。</p> <p>1回目の会議でも皆さんにご意見を頂きましたが、会議の直後、村長から「委員長、皆さん本音が出ないようですね。」と話がありまして、本音を語ってもらうにはどういう方法がいいかなとなって、ナマズでも食べていただいて、皆さんの本音を語っていただければということになって、それならば、ということで、役場でこういった形で会議を開いたらいかかですかということになって、この形になりました。</p> <p>約2時間、皆さんの方からご意見を拝聴させていただいて、その後、会食をということで、ざくばらんに意見交換会という形でございますので、食事会を通して泉崎村に対して忌憚のない意見を申しただければ、この人口減少対策委員会の参考になるのではないかなと期待しておりますので、どうかよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>議事に入ります前に第1回目の委員会を都合により欠席されました4名の委員の皆様、本日、ご出席を頂いておりますので、ご紹介申し上げたいと思います。</p> <p>まず始めに、福島県農業短期大学校、研修部長味戸裕幸様。</p>
司会	
味戸委員	<p>農業短期大学校の味戸裕幸といたします。よろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>続きまして、株式会社東邦銀行、調査役佐藤恭央様。</p>
佐藤委員	<p>東邦銀行の佐藤と申します。よろしくお願いいたします。</p>
司会	<p>続きまして、泉崎村婦人団体連絡協議会、会長三村成子様。</p>
三村委員	<p>三村です。よろしくお願いいたします。</p>

司会	<p>続きまして、泉崎村商工会、会長野崎靖之様。</p>
野崎委員	<p>商工会長の野崎です。前は会議と重なってしまって来られなかったもので、今日は期待してきました。</p> <p>色々な委員長が言ったようなざっくりばらんな意見なのですが、なかなか難しい問題ですので、ナマズを食いながら、ゆっくりと話をしたいなと思います。</p> <p>本日はよろしく願いいたします。</p>
司会	<p>なお、本日、白河農業協同組合泉崎支所長兼子竜三様と泉崎村消防団団長小林成吉様、都合により欠席でございます。</p> <p>続きまして、次第の議事に移りたいと思います。</p> <p>ここからの進行は、小林委員長にお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>
小林委員長	<p>－議事－</p> <p>はい、それでは議事に入りたいと思います。</p> <p>進行の方は私の方でやらさせていただきます。早速議事に入ります。</p> <p>まず、人口ビジョンの素案について、事務局の方から説明を願います。</p>
総務課企画財政グループ主任主査	<p>はい、それでは事前にお配りをしました、泉崎村人口ビジョン（素案）をお出しいただけますか。</p> <p>もし、本日、お忘れの方がおりましたら事務局でも準備しておりますので、声掛けしていただければと思います。</p> <p>それでは、前半部分は前回の資料と同じですので、29ページをお開きいただきたいと思います。29ページからが今回新しく付け加えたものになりまして、ここからの説明をしたいと思います。</p> <p>まず、泉崎村の人口動向と構造の特性と課題といたしまして、若干振り返ることもありますので、読ませていただきます。</p> <p>総人口は1890年に5,577人から1995年に6,924人に増加しましてその後は微減傾向となり2010年度に6,802人となっております。</p> <p>人口構造につきましては、少子高齢化が進んでいる状態になっております。</p> <p>出生と死亡につきましては、出生数については各年50人前後でほぼ横ばいで推移しておりまして、合計特殊出生率は平成25年度</p>

で、1.26となっていて、県と国の水準を下回っている状態です。

死亡者数については、各年70人から90人で推移しておりまして、5年間の自然動態はマイナス75人となっております。

転入転出につきましては、平成22年から24年を除くすべての年で転出者が転入者を上回っておりまして、5年間の社会動態はマイナス118名となっております。

転入と転出先につきましては、隣の白河市が3割近くを占めている状況となっております。

通勤と通学につきましては、村内在住の15歳以上の方の通勤・通学者の数が3,671人。その内、村内に通っている方が1,612人、他の市町村に通っている方が2,059人というような状態になっています。

次のページに移りまして、30ページ、こちらは泉崎村の課題となっております。

人口減少の対応といたしましては、趨勢人口が2010年の6,802人から2060年の3,100人に減少することが見込まれているとなっております。この減少の多くの理由は死亡によるものです。上段の方の棒グラフなのですが、これは移動数と死亡数、出生数をそれぞれ積み上げていったもので、2060年までの50年間で約4,370人の死亡が見込まれるとなっております。

高齢化した人口構造を背景に死亡者数を減少させることは困難であると考えられるため、今後の人口対策としては、出生数の増加及び転入促進、転出抑制が重要になってきます。

高齢化への対応なのですが、下の折れ線グラフの緑色の点線の四角マークの付いたものが、趨勢人口の見込みになっておりまして、今後も高齢化の率が増加していくことが見込まれております。

次のページ、少子化への対応なのですが、こちらでも緑色の点線グラフを見ていただきますと、年少人口の比率が徐々に減少していることが予想されます。

出生については、いろいろシミュレーションがありますが、経済的支援、ワークライフバランスの進展等を含めた子育て環境の向上を図るとともに若い世代の未婚化晩婚化を抑制するための、婚活支援の取り組みが極めて重要になると考えております。

課題の2としましては、人口減少による地域への影響といたしまして、人口規模の大きな縮小は地域における消費活動を衰退させるだけでなく、労働に従事する人口も減少することから結果として地域における経済規模が縮小し事業成果における様々なサービス、利

便性が低下していくとともに、こうした都市機能生活機能の低下による更に人口の減少を促すという悪循環に入ることが危惧されています。

下の段に行きまして、また、人口の問題は規模だけでなく人口構造の問題であります。このまま少子高齢化の傾向が続くことは、高齢介護等始めサービスの需要の問題に加え地域社会の安定や社会保障の維持にも大きな影響を及ぼすことが考えられます。長期的には、人口規模を維持し地域の活力を維持するという視点からも少子高齢化を抑制し人口構造を健全化する必要があります。

次のページに移りまして、目指すべき戦略人口と将来展望なのですが、泉崎村の人口の推計を2060年度で趨勢人口をとって3011人と推計いたしまして、戦略人口は2060年で4,036人を目指します。

これの推計の方法なのですが、次のページ33ページの合計特殊出生率、こちらが2030年に2.10まで上昇しその後は2.10を維持するというようなシミュレーションを適用させまして推計しております。

社会動態につきましては、2045年度までに社会減が解消しそれ以降は社会増に転換するというような形で推計したものが戦略人口として4,036人となっております。

参考として、ちょっと戻っていただくのですが、3ページの所に福島県の将来の見通しという所がありまして、福島県では2040年に合計特殊出生率、福島県民の希望出生率2.16を達成し、2040年以降は2.16を維持する。社会増減については、2020年に均衡、移動が均衡、0にするという推計をしております。泉崎村の場合は、合計特殊出生率は県より若干低めの数字ですが、社会動態につきましては、県より大分多めの推計をしている状況になっています。

最後のページ、37ページに移りまして、まとめとしての将来展望なのですが、泉崎村の将来展望としましては2060年に4,000人程度の人口を確保する。2030年に合計特殊出生率2.10を達成、2045年度までに社会減を社会増に転換するというような目標で人口ビジョンを制定していきたいと考えております。

人口の推計、自然増減、社会増減、それぞれの過程の条件について、今回、ご意見とご討論を頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

小林委員長

ありがとうございました。今、事務局から人口ビジョンについて、

<p>味戸委員</p>	<p>非常に大雑把な説明がございましたが、素案について皆様から気が付いた点がございましたら、ご意見を頂きたいと思えます。</p> <p>今、どうでした、説明を受けて味戸先生、気が付いたことありました。</p> <p>前に資料を頂いていたので中身を見させて頂いて、私どもの学校は、農業関係の学校でございまして、そこで農業者を育成しているところでもあります。</p> <p>農業関係の高齢化が従事者の年が67ということで、平均が上がってきている状況で、実際、若いものを育てることが非常に重要になってきていますが、高齢に合わせた農作業のやり方などについても検討しているところなのですが、これからは高齢人口、65歳以上の方の部分をどう捉えていくかということが大事なのかなと思っています。</p> <p>今回の人口ビジョンの36ページの所に高齢人口の変化率という所がございまして、これが戦略的なことで下がる率が上がる、2060年に105.3と89.0まで下がる場所を押し上げているところがあるのですが、ここを下げずに止める手法的な部分というのは何か考えられているのか、その辺をちょっとお聞かせ願いたいと思えます。</p> <p>理由は、今回の人口減少、全国的な問題で、これからたくさんの方が死ぬことが人口減少の原因になっていまして、これって全体に止められないのですね。</p> <p>そうすると小さい町村の単位で考えていくと、もう一つ下の生産年齢人口をどうやって増やしていくかが、非常に大事になっていくと思えます。</p> <p>自然増の方が地域として安定して行くのかなと思ひまして、このカーブを落とさないような手法をどのように考えているのか教えていただければと思ひます。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>2060年の目標人口が4,100人で、人口減少を見込んでいくという感じなのですが。</p> <p>安藤さん、集積事業が県の方針での、大きい農業展開をやりなさい、集積してね、農業委員会の立場としても、今、耕作放棄地が付託されるのです。</p> <p>そこに、官民一体となって大型ハウスでも立ててね、作物を作って、都会からその、寮でも作って若い人たちを、これから農業やりたいという人がいると思う、そういう人を村に呼んでね、そういう</p>

安藤委員	<p>手もいいのかなど考えているのです。</p> <p>テレビでもやっていますが、農業研修生を受け入れて、農家でやっていますかね。人が育ってこないダメだよね。人がね。</p> <p>農業経営体自体がだんだん、自然淘汰といいますか、農業を経営する人が現時点で減っている訳なのですが、それで大規模化していくところで、個人個人の形態でなくて、ある程度、会社化した経営の中で雇用、都会というか、そういう所から雇用を受け入れるという方向にだんだん進んで行きたいな、行くのでないかなというイメージがありますね。</p> <p>やっぱ、そういう経営体を育てていかないと、なかなか、雇用を生まないし、農業自体立ちいなくなるという先が見えてくる。</p> <p>そこを具体的に雇用まで行けるような経営体を育てていけるか、というところにかかってくると思います。</p>
小林委員長	<p>人がとにかく集まってこないダメだということで、前回、信金さんの理事長さんが来た時に、何とか泉崎に支店を出してくれないかとお願ひした経過があるのですね。</p> <p>お陰様で、今度、役場の新庁舎を八丸地区にできますので、ツルハさんもできたり、賑やかになるのかなと思います。できれば金融機関の支店というのが来ていただければ、また、違うのかなと思うのですが。</p> <p>この素案に皆さんからご意見を頂いて、こうだ、ああだ、というのはいいのですが、この事業は実践するのが大変だと思うのですね。</p> <p>先ほど載っていたように、婚活活動、この前も私、言いましたが、企業さん、秋山さんの所からご意見を頂いて、工業団地内の企業だけでも、婚活活動をやったらいいのかなとお話が出たのですが、村長さんは常々、やることはいいのだが、本当に若い人が参加してくれるか心配している。心配ばかりしていても。</p> <p>商工会長さんどうですか、商工会あたりで段取りして、婚活の場をね。</p>
野崎委員	<p>商工会そのものも非常に事業の忙しい中なのですが、まず、今、言ったように若い人がいないのは、非常に寂しいわけなのですが、状況を聞きたいのですが、朝日ラバーさんと秋山錠剤さん、これだけの方が来ているのですが、企業の中で若い人が何人いて、年配の人がどれぐらいいるかというデータってありますか。</p> <p>子供をどんどん生んでくれる若い人が、企業の中に来ているのか</p>

<p>小池委員</p>	<p>どうか、そういう部分をこの場で聞きたいなというのが、実際あるのですが、せっかく来ていただいたので、会社の流れを聞きたいなと思います。</p> <p>まず、秋山錠剤さんからお話しただければ。</p> <p>そうですね。私どもは、総勢で56名いますけども。</p> <p>その内、女性が半分ちょい位。適齢期、20歳から30前半位の方は、大雑把ですけども、3分の1か、4分の1位に相当すると思いますけど、まだ独り身というのは。</p>
<p>野崎委員</p>	<p>それくらい、いっぱいあれば、色々な面で対応できると思います。50代を越えていると話にならないですからね。</p> <p>朝日ラバーさんはどうなっていますか。</p>
<p>堀委員</p>	<p>朝日ラバーは泉崎村に二つ工場があって、白河に一つあるのですが、泉崎村の工場では、合計で130名ほどいます。</p> <p>男女の比率が、女性が3割、20代から30代前半の部分で言いますとこれも3割くらいですね。</p> <p>結婚していない人間が、うちの会社は多くて、勤続20年以上たっているものでも、ごろごろ居まして、40代で結婚していない男性がかなりいまして、非常に困っている状況ですね。</p> <p>今は、若い子の方が、結婚する子は早いですね。20、21とかで結婚する子も増えている。</p> <p>逆に30代、40代はできていない男性が多いので、早く結婚すると、社内で見つけようとする女性が少ないので、社内での結婚というのは少ない状況になります。</p>
<p>野崎委員</p>	<p>若い方が結婚しない原因は、あまり給料が高いからですかね。</p> <p>全部一人でできると考える女性の方も多いのではないかな。</p>
<p>堀委員</p>	<p>前回も話したのですが、興味がない、男女交際に、別の趣味があって、なかなか異性と遊ぶ若い人がいなくなっている。</p> <p>40代になるとどうも諦めている。機会がない。</p>
<p>野崎委員</p>	<p>そこが大きな問題の気がします。諦めるというのはね。</p> <p>40代でも子供ができる可能性は大なのですが。ま、いいかという感じになりがちなのです。</p> <p>今の話を聞くと泉崎の企業に、若い女性はかなりいるという話が</p>

ありましてね、その中で若い人たちをどうして結婚をさせるか。
ほおっておいても、やっていけるような姿にしてもらいたなというの譲れないのですが。
もう一つ、村長さん、泉崎の天王台、まだまだ空き地がありまして、その中で若い人たちが、天王台に来てもらうための建物を一つ立てるのですが、そういった面で若い人を引っ張ってくる。
その中には条件があって、泉崎に来て働くところがないということでは来てくれない。
こういう良い会社がいっぱいありますから、そういう所とタイアップして若い人に泉崎に住んでもらう、そうすれば明るい先が見えてくるのではないかなと思うのですが。
これまた難しい問題なのですが、前々からできている、八雲団地ですね。八雲団地に仕事上で度々行くのですが、非常に空き地もあるし、また、高齢者であると、住んでいる人が、ここらへんもちっと力を入れて改革していかないと、せっかく大きな団地があっても実らないというのが現状だと思うのですね。
1番は人間が来ないことには増えていかない。
若い人を見ると1人、2人しか子供がいらないからどんどん減っちゃうね。

小林委員長

それでは、人口ビジョンに関しては、ここでひとまず、打ち切りまして、総合戦略の説明を事務局から受けた後に総合的に皆さんの意見を拝聴したいと考えております。
今の商工会長の話もその後したいと思います。
それでは、総合戦略について、事務局、説明を願います。

総務課企画財政グループ主任主査

はい、それでは、今度は泉崎村まち・ひと・しごと総合戦略（仮称）素案についてご説明いたします。
まず、3ページをお開きください。3ページなりますが、泉崎村の総合戦略の位置づけとしましては、泉崎村では、総合振興計画というのが1番上位の計画としてありまして、その総合計画に基づきまして、人口ビジョンを策定しまして、先ほどでました趨勢人口から戦略人口にするためには、どういったものを取り組んで行けばいいかというのが、総合戦略になりまして、総合戦略は人口ビジョンにおいて、設定された将来人口規模、戦略人口を達成するための戦略でありまして、政策分野ごとの基本目標が提示してあり、重要業績評価指標、KPIを設定する必要があるものになっております。
次は5ページに移りまして、泉崎村総合戦略の施策の体系なので

すが、まず基本目標がありまして、その基本目標の中に政策の枠組みがあります。

その政策の枠組みの下に具体的な施策がありまして、泉崎村としましては、5つの目標と立てて実施していく予定であります。

まず一つ目が、ひとを育む。二つ目が、しごとをつくる。三つ目が、ひとの流れをつくる。四つ目が、安心をつくる。五つ目が、まちをつなぐ、になっています。

次のページになるのですが、具体的な施策の展開とありますが、内容の説明をする前に、総合戦略の仕組み説明を若干したいと思っております。

まず、総合戦略なのですが、まち・ひと・しごと創生法というのがあります、その法律によりまして、検証が出来るように総合戦略の実施状況についての、客観的な指標を定めなければいけないとされています。

その客観的な指標と検証を実施することが、総合戦略に求められていますので、まずは、基本目標というのがあります、基本目標は、数値目標が伴っているものとされています。

次に個別の施策には、重要業績評価指標、K P I と呼ばれる指標を設定することが求められております。

これは今後、K P I と略させていただきます。そのK P I につきましては、目標の達成度合いを測るための、定量的な指標と定義されております。

これらの指標は、それぞれの施策や基本目標がどの程度達成されたかについて、検証をする際に使われるものとなっております。

7ページの所に主な取り組みとありまして、例えば、幼稚園の開放とあって、後ろにカッコ書きで2章3節2（1）とあるかと思いますが、これは村の振興計画に計上されている場所の表記になりまして、実際の本番の総合戦略には、個々の部分は削除して、記載されない形になります。

それでは、中身の説明を始めます。

まず、基本目標1のひとを育むなのですが、数値目標としては、出生数と婚姻数を考えております。

基本方針としては、結婚から子育てまで切れ目のない支援を行うことにより、若い世代を中心とした結婚、妊娠、出産、子育ての希望実現を目指します。

具体的な施策としましては、5つありまして、晩婚化対策といたしまして、婚活イベントを企画していきたいと考えております。

そのK P I の例としては、婚活イベントの実施回数、参加人数と

していきたいと考えています。

2番目の子育て環境の整備につきましては、赤ちゃんがいる家庭への全戸訪問や幼児定期健診の実施、または、交通安全等への取り組みを強化し、安心して子育てができる環境整備に努めます。

さらに家族の絆を深めるとともに、子育てを行う若い世代の負担軽減を図るため、3世代同居・近居に向けた支援に努めます。

KPIは、幼児定期健診受診率と多世代同居世帯数を考えております。

次の3番目、学習教育の場の充実につきましては、子供の学力向上に向けて、教育機会、教材の充実に加え高度情報化に対応する教育等を推進します。

また、健康教育・食育・国際理解の教育等の強化により子供たちの生きる力を育てます。

KPIとしましては、プチスクール土曜学習の実施回数、健康教育・食育の小中カリキュラムの導入を考えております。

4番目の経済的支援の推進としましては、住民の妊娠・出産・子育ての希望実現のために、特定不妊治療助成の継続とその周知を図るとともに、第1子からの出産祝い品贈呈やチャイルドシート、紙オムツの購入費用の助成に加え、幼稚園・保育所の保育料無料化等による多面的な支援を推進します。

KPIとしましては、経済的理由による高校への非進学者数、特定不妊治療費助成受給者の出生数。

主な取り組みとして、ここでは、幼稚園と保育料の無料化事業、あとは出産祝い品の対象の拡大が検討されております。

次のワーク・ライフ・バランスの推進につきましては、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、子育てを担う若い世代の労働時間、長時間労働を削減するため、フレックスタイム制度や朝方勤務制度の充実を推進します。

また、育児休暇等の制度を設けた企業・事業者に対する優良企業の認定を行うことにより、出産、育児、仕事の両立の実現を支援します。

更に公共調達においても、女性が活躍できる職場の実現等を推進する企業を評価し、そうした企業の受注機会の増加につなげます。

KPIとしましては、ワーク・ライフ・バランス優良企業の認定数を考えております。

施策の方向性と数値目標の項目は、事務局で提示させていただきましたので、この点について、委員の皆様からご意見を頂ければと思います。

<p>小林委員長</p>	<p>例えば、主な取り組みとして、こういった事業をやった方がいいですよとかの、お話が頂ければ助かります。以上です。</p> <p>はい、ありがとうございます。</p> <p>まず、基本目標の1として、ひとを育む、ということで事務局から、説明がございましたが、この点について皆様からお気づきの点がございましたら、</p> <p>はい、長久保委員。</p>
<p>長久保委員</p>	<p>前回から話になっているのですが、今日も事務局から提案があったようですが。</p> <p>まず、高齢者が亡くなっていくのは、防ぎようがないことで、その点で、2060年までには、2,500人ぐらいの人が減っているのですが、その内のおそらく1,500人は、高齢者が亡くなっていることだと思うのですが、それは防ぎようがないということになれば。</p> <p>若い人に転入していただきたい、若い人が来るためには、当然、仕事がないといけない。</p> <p>あるいは、近隣の市町村と比べて、泉崎に住めば、こういう優遇がされるとか、あるいは、こどもの援助が受けられるのだ、ということがなければ、若い人は来ないと思うのですが。</p> <p>それと同時に今いる若い人に、先ほどからお話になっている、婚活活動を積極的にやるというのは、テレビでもやっていますよね。</p> <p>どこの地域に行くと男性のところに、女性が全国から集まってくる。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>よくやっていますね、テレビ番組で。</p>
<p>長久保委員</p>	<p>そういうのをやれば村のPRになるし、泉崎村こういうところなのだよ。</p> <p>あるいはこういう若い人がいるのだよと、まずPRする視点が、一つの方法だと思う。</p> <p>それに対して、若い人が結婚して、子供が出来ることに対してどういふ支援ができるのかが、問題だと思うのですが、一概に答えが出せることではないと思うのですが、まずは若い人に来ていただかないと、人口が増えることに結びつかないと思うのですが。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>テレビ番組では、特産物の市町村が多いですね。例えば漁業専門</p>

<p>三村委員</p>	<p>にやっているとか、みかん農家とかメロン農家とかね。 それで後継者なり手、嫁さん募集中とかテレビで良くやっていますけどね。 これもやらないよりやった方がいいと思う。 いま、ひとを育むというところから出てきた子育て支援のことなのですね。 女性の立場から、三村さん、子育て支援に対して、何か気が付いた点ございますか。</p> <p>結婚しないとね。子供はなかなか、未婚の母とか、今、結構いますけど、世間体と言いますか、そんなの気にして未婚の母とかは、お目にかかったことないですけど、テレビなんかでは結構見ますけど。 私、この環境整備のことで、ちょっとあれなのですが、今、泉崎村保育所、ありますよね。 保育所にやっている人たちが、蛇が出るとか、虫に刺されるとか、保育所の環境が悪いのかなという、そこに子供を預けると、虫にかぶれるとか聞くから、そんなに虫でると聞くと、山の近くだから、やっぱりそういうことがあると言うのですね。 子供を産んで、一人より二人、育てるといふのがあつたけど、場所の環境の悪い、蛇でたり虫でたりするとことでは、今の子供は、皮膚弱い子供多いですよ。 私らの時代はね。極端に言つたら拾つたものを食べても大丈夫だといふ体作りしていましたが、今の子供はちょっと何かしてもすぐかぶれるとかあるから、ある程度、結婚して子供を産んでもらつたら、やっぱりその幼稚園でも保育所でも、ちゃんとしたところでないといふ、そういう心配もあるのかなと、ちょっとありますけどね。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>私も保育所に10年くらい世話になつて居るのでありますけどね。虫の話は1回も聞いたことがないね。 ただ、蛇が幼稚園に出たなんて、うちの孫が、誰先生が手でつかんで捨てたのだとかね。 はい、安藤さん。</p>
<p>安藤委員</p>	<p>今、経済力の違いが、学歴の差に反映されるというのが、テレビの番組で聞いたことありますが、経済力があるところは、学校より学習塾に行つて、学力を高めるといふことがあつたらうと思つたので、やっぱり、そうではなくて、前にちょっと耳にしたことがあるので</p>

<p>小林委員長</p>	<p>すが、学習塾の先生を学校に呼んで、特別学習を泉崎もやっているのだよと聞いたことがあるのですが、そういうことを充実させれば、村自体の教育レベルが上がって、素晴らしいことにつながるのかなと思います。</p> <p>泉崎は、何かその、塾に、親の経済負担も減りますし、泉崎はレベルが高いのだよというところがあれば、魅力の一つになると思います。</p> <p>そういうことが大事かなと、学校の先生の他に、試験なんていうのは、対策を練って戦略的にして、成績が上がる面もないとは限らない。</p> <p>だから、先生方もプロなのですが、何というか、即戦力みたいな、学習塾先生の教えを、受ける機会を、村自体で与えてやるのも、大きなことなのかなと思っています。</p> <p>中学校の学力向上、小学校も同じなのですが、その学力向上に関しては、村も手をこまねている訳じゃないのですが、詳しくは、教育長どうですか。</p>
<p>教育長</p>	<p>先ほど、三村連絡協議会長からありました、保育所が虫が出るとか、蛇が出るとか、環境が悪いということがありましたけど、やはり築30年は過ぎていきますので、幼稚園のそばに、新庁舎が出来ますので、幼稚園の近くに、老朽化のものでありますから、保育所を移転をすると、泉崎村振興計画の中にうたっておりますので、実現をするように、これから準備をしてみたいです。</p> <p>それから、安藤さんからご意見ありました、中学生の学力向上につきましては、土曜にですね、プチスクールを、この③の学習教育の場の充実の中で、例として、プチスクール土曜学習会の実施開催とありますけど、このプチスクールといいますのは、学校の教育から離れて、行政の方で毎週土曜日ですね、資料館で学習会をやっております。</p> <p>小学校5年6年対象、それから中学校1年2年3年の数学と英語をやっておりまして、26年度は41回ですね。</p> <p>土曜授業を行いました。やはりこれは無料ですので、保護者がやはり、経済格差があることを聞いておりますので、行政の方で、全て講師から会場を無料にいたしまして、実際に土曜学習会を行っております。</p> <p>そういうことで、保護者の受験、或いは子供の将来に対する認識も少しずつ変わってきておりまして、非常に受講生が今増えてきて</p>

	<p>おりまして、特に今年は、後半になりましたけど、英語もということ、英語の方も実施することになりまして、今年も数学と英語を、中学生の1年2年3年を対象に現在、スタートしております。以上でございます。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>泉崎村の保育所は、環境的に恵まれているとは言えないねと、再三、村長とも話しまして、できれば役場が出来て、幼稚園のそばに、保育所をもってって、保幼一体化出来ればいいですねと喋ってますので、5か年総合戦略には、保育所をもってくるとなっていますので、もう少し、虫の問題は、ただ、建物も古いですから環境もありますけど、建物から出てくるというのも、あるかもしれませんね。</p>
<p>三村委員</p>	<p>やっぱり、保育所も幼稚園も近くて環境がよかったらね。 家なんかも遠くに息子がいるから、近くにこういう所があるよって、連れてこられるけど、そういう所に預けたくないって言われると、なかなか、若い人たちね、腰を上げないですからね。 よろしく願いをいたします。</p>
<p>小林委員長</p>	<p>次に、基本目標2のしごとをつくるについて、事務局、説明願います。</p>
<p>総務課企画財政グループ主任主査</p>	<p>はい。それでは9ページになります。基本目標2、しごとをつくるになります。 こちらの数値目標は、新規就業者数を想定しています。 基本方針は、新たな仕事や雇用を生み出すことにより、人口の村外流出を食い止めます。 新規就農者や販路拡大への支援の強化により、村の基幹産業である農業を中心とした、第1次産業の振興を図ります。 施策の枠組みとしては、3本ありまして、その1つが企業誘致等の促進です。 具体的な施策としましては、①企業誘致による雇用の創出。 これはK P Iとしてあるのが、誘致企業数となつてまして、企業誘致をして、雇用を創出しようということになります。 次の②は、地域企業の競争力強化による雇用の創出。 こちらは、県や村の商工会等と連携を強化し、高度化資金等の助成制度の促進や商業振興制度の拡充により、村商店の活性化を図ることにより、商業の総合的な発展を目指します。 K P Iとしては、高度化資金の助成件数と村内の商店数を想定し</p>

ております。

次の③、若年層の新規就業、創業への支援といたしましては、企業誘致に伴う求人情報の提供や、必要な職業訓練について、関係機関と連携をした支援を強化します。

また、村内で創業、起業する事業者に対する補助金の交付や、活用可能な空家、空店舗等の情報提供の支援を行い、新たな事業の立ち上げを促進します。

K P I としましては、創業、起業に活用された空家、空店舗数、創業企業数になっております。

次の施策の枠組みの二つ目、製品の販路拡大につきましては、具体的な施策として、村製品の販路拡大に向けた地産地消といたしまして、農産物を中心とした村産品を村内の学校・福祉施設等の給食や飲食店等で使用することにより、村内外へ安全性や品質の P R と共に、地域内の経済の活性化、農業の振興を図ります。

K P I としましては、村製品の取り扱い施設、店舗数を考えております。

二番の農林畜産物の販路開拓につきましては、農産物を中心とした、第一次製品の販路拡大のため、新たな観光案内所を兼ねた直売所建設の検討を進めると共に、県のアンテナショップへの出品に向けた取り組みを進めます。

K P I としては、直売所の開設、県アンテナショップの村製品の取扱品の品目数です。

主な取り組みとしては、直売所の検討というのが入っております。

続きまして、施策の枠組みの三番目、未来につながる農業づくりとして、具体的な施策としては、農業生産基盤の強化といたしまして、育成すべき経営体と農業経営目標の明確化等により、生産体制の確立と生産性の向上を推進し、泉崎村の生産基盤の強化を図ります。

K P I としましては、育成対象とする農業経営体数、集落営農組織数を考えております。

次のページに移りまして、②農業の六次化の推進、六次産業化により農産物の付加価値を高めるため、新たな新製品や産業間の連携に向けた取り組みを進めます。

K P I としては、六次産業化による製品開発数を考えております。

次の③農業の担い手の育成確保、地域の理解と協力を得ながら認定農業者、新規就業者の育成や移住者の就農を支援し、村の基幹産業の一つである、農業の多様な担い手の確保に努めます。

K P I としては、新規就農者数。主な取り組みとしては、新規就

	<p>農者への支援を想定しております。</p> <p>こちらの施策の方向性と、主な取り組みと、K P I の設定の仕方の検討をよろしくお願いいたします。</p>
小林委員長	<p>はい、ただ今、事務局より基本目標のしごとをつくるについて、説明がございましたが、皆様から、何かお気づきの点がございましたなら。</p>
味戸委員	<p>はい。</p>
小林委員長	<p>はい。どうぞ。</p>
味戸委員	<p>9 ページからのところで、農業のところがありまして、ちょっと、提案といいますか、うちの学校は、非農家の子が来ているのですね。半分ぐらいです。そういう子が学校を出て何をしたいかというところ農業をやる。</p> <p>ところが家が非農家ですと、土地を持っていないものですから、農業が出来ない。</p> <p>そうすると、現状としては個人の所に就農するという形になっております。</p> <p>例えば、泉崎村さんで農業生産法人を作っていたら、その土地を使って、園芸作物を作る。園芸がいいと思う。</p> <p>米の方は人手がかからないのでダメなんです。</p> <p>園芸ですとかなり人手が必要になってくる、収穫作業とかに。</p> <p>そういう会社を作っていただくと、そこに勤めたいという子が、集まってくる。</p> <p>それと、傍に宿泊施設という表現もあれですが、例えば寮を作る。そこから通う。</p> <p>多分、税金の話から言うと住民票がある人が増えれば、税金も上がるし、そうなってくれば、寮見たいものを作ってそこから通ってもらう。</p> <p>そうすると寮を作ると、戸別の家がいっぱいあるのではなくて、寮になると交流がある。</p> <p>ある程度、閉ざされた空間に男女がいると、結構、芽生えることも多い。</p> <p>そんな形のものでできると行けるのかなと。</p> <p>T P P 問題とか言われていますが、生鮮野菜というのは実は売れているのです。原発事故以来、値段は安いというのはあるかもしれま</p>

せんが、物量的には動いておりますので、まだまだ、そういう面ではできると思います。

特に泉崎村さんは、土地が平らなところが多いのであれば、そんなところで、農園としてできるのかなと。

もうちょっと話をさせていただきますと、例えば老人ホームを作ってですね。

そこにデイサービスなりで昼間預けられる。近くに農業や工業系でも構わないのですが、そこに勤める。

そして帰りは、一緒に家に帰る。保育園に子供を預けますよね。

それみたいに親御さんをちょっと昼間見てもらう、といったことをすると地域にいて、何かできるということもできるのかなとったりしています。

なかなかそういった投資のことは、難しいことかもしれませんが、そういったことをすると地元において、定期的に出かけることもできるのかなと思います。

小林委員長

はい。他にございませんか。はい、佐藤さん。

佐藤委員

しごとつくることに関しては、非常に大事なことだと思っております、と言いますのは、ちょっと理想的な話をしてしまうかもしれませんが、おそらく、どの地方に関しても共通のことなのですが、なかなか地方に来てくれることはないと思います。

その中で、仕事の関係で来ましたという人は、非常に多くいらっしゃると思います。

その中で泉崎村、あるいは白河市、西郷村というのは、非常に環境的にも、多くの企業さんがいらっしゃっています。

その中である程度、雇用を、きちんとした雇用の場を設けていただくというのは、定住にもつながりますし、永住する中で、家を建てて子供を育てるところにも、つながると思いますし、今、一番多くの問題を抱えているのは、おそらく感じていらっしゃる通り、子供たちが首都圏・東京に行きたいですとか、あるいは、都市部に行きたいという気持ちをもつ子供たちが多くて、私の周りの人たちも、また、この地域に戻ってくる。

いわゆる、Uターン。戻ってくる方は少ないと聞いております。

そういった意味でも産業界の方には、地域にいらっしゃってくださるのは、戻ってきてその場で生活をする。

あるいは、働くという意識になるので、すごく力を入れていただきたいなと考えております。

その生活をする中で、先ほどの話になるのですが、ひとを育むという部分で、実際に住んでみると子供を育てる環境が整っているとか、そういうところに気づくことがあって、始めから、子供を育てる環境が整っているから、わざわざその地域、泉崎村に来るかというとは、そうではないと思いますので、やはり、1番の切掛けを作るうえで、この雇用、起業を誘致するというのは、非常に大事だと思います。

そこが、人口の将来展望、2060年には3,000人くらいになってしまうものを、もう少し4,000人ではなくて、もう少し上の線で推移する状況につなげられるのではないかと考えております。

意見として申し上げました。以上であります。

小林委員長

ありがとうございました。それでは、基本目標の3のひとの流れを作る。

事務局の方、説明をお願いします。

総務課企画財政グループ主任主査

はい、それでは13ページになります。基本目標の3、ひとの流れをつくるです。

まず、数値目標としましては、移動数、転入から転出を引いたものを想定しています。後は観光入込客数を想定しています。

基本的方針としましては、移住定住の促進や観光交流等の振興等によって、泉崎村の将来を支えるひとの流れを作ります。

大きな施策の枠組みが3つありまして、その内の1つが移住定住の促進です。

移住定住の促進に向けた具体的な施策としましては、1番、首都圏を中心とした移住定住の情報発信、泉崎村へ移住を検討している人のため、過去に移住をした人を対象に、村での生活を調査し、ライフスタイルの例として冊子を作成し、ホームページへ公開します。

また、移住する際に活用できるサービスやライフスタイルの提案、相談等を一元化して対応できるよう、移住定住相談窓口を充実します。

KPIとしましては、泉崎ライフスタイル調査の実施、泉崎ライフスタイル冊子の作成を考えております。

次のページに移りまして、②地域のニーズに対応した移住者受け入れ態勢の構築、泉崎村の出身者が大学卒業後に村内に移住、就職をすることによる奨学金の一部免除や、地域の理解と協力を得て地域おこし協力隊の受け入れを行い、移住定住を促進します。

K P I としましては、奨学金の減免者数、地域おこし協力隊の受け入れ数を想定しています。

次の3番、住まいの確保による移住定住の促進、これは公営住宅、定住促進住宅等の長寿命化や、若者定住賃貸住宅の建築といった、住宅開発の計画的推進や、民間による宅地造成に向けた適切な土地利用を行い、移住定住希望者の住まいを確保します。

K P I としましては、長寿命化実施済みの公営住宅数、若者定住賃貸住宅建築数を想定しています。

続きまして、交通の利便性の向上につきましては、少子高齢化の推進や周辺地域開発に伴う需要の高まり等の人の動きを踏まえ、泉崎駅の東口設置の実施に向けた、具体的検討を進めると共に、駅にスイカの設置や高速バス乗降所の設置による交通の利便性向上を図ります。

K P I としましては、スイカの設置、高速バスのバス停設置です。

次の5番目は郷土愛の醸成でして、主な取り組みとしましては、小学生を対象とした伝統文化体験授業ですとか、泉崎の魅力発見事業、泉崎村の特産品を生かした食育推進事業を考えておりまして、K P I としましては、村の特産品を活用した給食メニュー数、魅力発見ワークショップの実施を考えております。

大きな枠組みの2番目、観光振興によるひとの流れの促進につきましては、具体的な施策としましては、国内外からの観光誘客、J R 泉崎駅に隣接する泉崎資料館などへの公衆無線 LAN の整備による利便性の向上を図ると共に、観光に関するホームページの作成やフェイスブック等の SNS の活用により、村の魅力等の情報発信の強化を行います。

あらゆる機会を捉えマスメディア等を活用した、広報活動を展開し、温泉利用者の増加を図ると共に e - 村民との交流を促進します。

K P I としましては、SNS 対応ホームページの平均アクセス数を考えております。

主な取り組みとして載っています。観光施設ホームページ作成と公衆無線 LAN の整備につきましては、今年度先行型として事業を実施しているところであります。

次の2番、観光地の再生につきましては、村のシンボルである鳥峠の自然を生かした遊歩道や、村内幹線道路の桜並木の維持整備を図ると共に、こうした観光資源をつないだ観光モデルコースを策定します。

村の主要な観光施設であるカントリーヴィレッジにつきましても、必要に応じた施設サービスの整備充実を図ります。

<p>小林委員長</p>	<p>K P I としましては、観光モデルの策定を考えております。</p> <p>大きな柱の3つ目、観光交流の基盤となるスポーツ文化の振興につきましましては、具体的な施策としましては、スポーツによる地域振興。</p> <p>K P I としましては、スポーツ合宿の誘致数、スポーツ推進員育成数を考えております。</p> <p>2番目の地域文化財の民俗芸能保存継承につきましましては、K P I として、文化財マップ設置版設置数、文化活動団体数を想定しています。</p> <p>以上で、ひとの流れをつくるの、説明になります。</p> <p>基本目標の3、ひとの流れをつくることについて、ただ今、説明をいただきましたが、皆さんからご意見ございましたら伺いたいと思います。</p> <p>何か、ございませんか。</p> <p>はい、山田さん。</p>
<p>山田委員</p>	<p>私も他県からの移住者で、どうして泉崎に住むことになったのかという時に、住まいの借り住まいを探しているときに、雇用促進住宅、他県から来るときに、収入の面で村営の住宅に所得が多くて、入れないという状況があって、雇用促進住宅の方なら、という話があって、紹介をされて来て、利便性とか、子供が3人おりましたので、学校のこととか、そういうのは、実際は住んでみてからでないといけないところがあって、入ってくる側の人からすると、入ってくる前に、全部、下調べして入ってくるかということ、そうではないと思うのですね。</p> <p>だから、入ってきてから、こういう小学校があって、こういうサービスが受けられてと、学んできたところなんですけど、それで、借り住まいが決まると、必然的に幼稚園が決まって、小学校が決まると、住宅を建設しようと思ったときに、子供を転校させるというのは、ネックになってくるので、他の市町村は考えにくいので、泉崎で土地を探して、八雲ニュータウンに住宅を建てて、定住している感じになりますけど。</p> <p>周りを見ると雇用促進住宅と一緒に住んでいた方が、同じ分譲地の中に家を建てて、住んでいることも結構あるのですね。その中でもコミュニティがあったりするのですね。</p> <p>ひとの流れを作るときの借り住まいの第一歩は、子供さんが小さい場合は、入る幼稚園だとか、小学校の内容も大事なのですが、ま</p>

ずは、定住を考えた時に、他と違いをつけるのだったら、もうちょっと価格を安いだけでも、自分たちが住みたいと思えるような借り住まいがあるとか、何かそういう点があったらいいなと思うのと。

これは個人的な意見なのですけど。

あと、私の仕事を手伝っていただいているスタッフさんが、最近、白河に土地を買ったようなのですが、ご主人は会津生まれなのですね。全然白河に関係のない方なのです。

白河市内の企業に勤めていて、西郷出身の方と出会って結婚して、お子さんが幼稚園生なのですね。二人とも。

何で白河に家を建てることになったのか、今回の委員会のこともあったので、参考になるかと思って聞いてみたら、最初、借り住まいを借りるときに、特に白河市にこだわりはなかった。

やっぱり住んでみたいと思う所を不動産屋さん、結婚して家庭を持つときに、紹介してもらった住まいが、気に入ったからそこに住んでいて、そこに子供が生まれて、やっぱり、教育する環境を今のところから、極端にずらしたくないということで、白河の中で土地を探して、家を建てることになったと聞いたときに、自分と同じだなという部分があったので、県外の方で、定住をしてもらおうと思えば、やっぱり、雇用の関係が一番重要だと思いますが、仕事のない所には、人は入ってこないと思うので、雇用があれば、住まいを考えるときに、借り住まいをどうするか、企業に働いている若い方は、出会って結婚をしたときに、一番、最初に住む住まいが、結構、重要なことになってくるかなって思いますね。

そういう流れを見据えておけば、村の方には分譲地もまだ空きもあるということなので、そういう流れも頭に入れておきながらいければ、また、違ってくるのかなと思いますね。

借り住まいを探すときに、じゃあ、泉崎のアパートなどなりを分かる人が、ここだったら、矢吹とか白河に勤め先があるのだけれど、住めるかなと考えられる部分があるのかなと思います。

小林委員長

ありがとうございます。他にございませんか。はい、古川さん。

古川委員

ナマズの料理が出ると聞きましたが、これはもしかしたら、面白いことになるのではないかと思います。まだ、始まったばかりだと思いますが。

私は伊達郡川俣町の出身で、川俣で川俣シャモというのをつくっておりますけども、私が高校生くらいの時に、町が振興公社を作りまして、公社がシャモの肉を取り扱って行こうということが、始ま

ったと記憶しているところなのですけども。

川俣で、何でシャモなのかなと、私、若い当時は分かりませんでしたけども、昔は絹織物で盛んだったわけなのですね、川俣町は。

機織り工場の社長さんたちが、鬪鶏をやっていたのですね。

シャモ同士を戦わせて、絹で儲けた旦那さん方が、暇つぶしにシャモで戦いをやっていたと、鬪鶏自体は全然廃れて、私も見たとことがないのですけれども、誰かがアイデアで昔、シャモをやっていたよね、から、川俣シャモで、いろいろ製品開発では、掛け合わせをしたりして美味しいものを作っていったように聞いておりますけども。

そういう歴史ですとか物語ですね。川俣だとシャモというような、裏付けある所の商品開発というのが、ある程度成功した例なのかなと思っている。

ナマズもですね。この間、白河の社長さんが、食べたそうなのですね。俺、小っちゃい頃、ナマズ取って食っていたという話をされていましてので、ナマズはかなりポピュラーな食材の一つだったよと言っておりましたので、何かうまく物語をつけてあげると、新たな村の食材ということでPRになるのかなと。

こちらにも、泉崎村の特産品を生かした食育の推進事業ですとか、前に、我が家のアイデア料理コンテストコンクールをやっていて、食育を結構やっている。

クッキーか何かグループの皆さんが作って、土偶か何か作っていたのを見ましたので、うまい特産品が一つできれば、そこから発信できるのではないかなと思いました。ナマズ、楽しみです。

小林委員長

ナマズにはですね。村長さんも、大変関心をもたれていまして、私もナマズの顔が好きなのですね。

ユニークな顔でね。キャラクターとして良いような気がしてね。

村長さん、まとめてお話していただいてね。村長さん、茨城が盛んでしたっけ。

村長

今、結構普及しているというか、地域で売ろうとしているのが、埼玉県の吉川市だそうですね。

三村委員

ナマズがでたので、観光の方の烏峠の整備なのですけど、どの程度に整備する予定でしょうか。

私、夕べ、夜8時頃、旅行に行って帰ってきて、折角行ったのにこんな感じだったとって、帰ってきたのですけど、うちの烏峠も

昔から立派な社務所とか、いろいろなものありますが、夜、あそこの道路を車で上がって行くのは、不安という感じがするのですけど、何か、他所の人が、折角来たのにこの程度だったのって、行ってみればこんな所だった、となるのですね。外国でもそうなのですけども。

だから、どこでも冬のイルミネーション、ライトアップで、日本全国、それで観光客を呼び寄せているのですけど、だから、泉崎も鳥峠の入るところを、ずっとイルミネーションとかをやって、観光、ナマズで人を寄せて、そこに、さつき温泉に泊まって、夜、何か楽しさが欲しいなって思ったとき、鳥峠を見に行くのに、歩く通りをライトアップとかの工夫をすると、情報化社会で、すごい宣伝をしていて、凄いなって行くとそうでもないなっていうと語弊がありますが、だからそういうことをやって、泉崎に来たら、あそこに光っているのは、何って、鳥峠はこうなのだよって、泉崎は平坦だから、鳥峠がちょっと高いところにあるから、目立つのですよね。

だからそういうのを有効にイルミネーションにLEDを使って、皆、どこでも、それで、人をよんでいるのですね。

だから、泉崎もそういうことをやったらいいかなと思いました。

小林委員長

今は、時代が変わってね。近くの神より遠くの神という感じでね。昔は、長久保さんも良くご存じでしょうけど、鳥峠だと八朔大祭とか、筥祭りとか、年に何回か、もちろん、暮れのお祓い、初詣と大変賑わっていたのですけど。

何か、今ね、鳥峠、ご利益がないのかね。登る人があまりいない。健康維持でね、愛好家というか定期的に登って行く方はよくいるのですけど。

この前も目立つところに、粗大ごみを投げられて、この始末で、折角、由所ある社務所なので、何とか考えてみると、保護林だから泉崎の花見山にするかというところもいらない。

保護林なのですよね。私どもも冗談で、こっちから見える面のところ全部に花植えて、花見山にしたらいいべと、言ったのですけど、手をつけられない状態で。

ただ、社務所については、何年か前までは氏子総代がおりまして、お祓いとか筥祭りをやったのですよ。もう十何年も前ですね。

三村委員

他町村の人が結構来ているようなのね、話を聞くと。

鳥峠に行ってきたのと聞くと、小アジサイが咲いてきれいだったとか、陰の所にお稲荷さんが祭ってあるのとかって、泉崎の人より

	<p>他町村の人が、結局、近くの方は、いつでも行けるって感覚なのだけど。</p> <p>他所の人たちは、ちょっと興味があると、泉崎のこういうところに何があるのかなと思って、他の人たちが、逆に知っているという感じです。</p>
小林委員長	<p>今から1か月前くらいは、すごかったでしょうね。あの紅葉はね。椈が素晴らしい、頂上は、ああいうのを活かしたいと思いますね。</p>
三村委員	<p>泉崎より大したことのない椈が、ライトアップされるとすごくきれいで、10倍、20倍っていう感じです。どこに行ってもね。</p>
長久保委員	<p>鳥峠には、すごい祠があるのですよね。</p>
小林委員長	<p>これから作るものでない。あるものですからね。</p>
三村委員	<p>あるものを利用して。お金かかる事業でないからね。</p>
小林委員長	<p>ありがとうございました。それでは、基本目標4の安心を作る。事務局、説明願います。</p>
総務課企画財政グループ主任主査	<p>はい。それでは18ページになります。基本目標4、安心を作るです。</p> <p>数値目標としましては、自主防犯組織数と地域密着型サービス利用者数。この地域密着型サービスというのは、介護保険関連の施設の利用者数になります。</p> <p>基本的方針としましては、多様化する犯罪や自然災害を含め人口の規模構造の変化に対応した、安心な生活環境作り努めます。</p> <p>施策の枠組みとしては、2つありまして、まず、1つ目がくらしの安全安心の確保といたしまして、具体的な施策としては、地域コミュニティの再生と活性化としまして、世代間交流の推進とふれあい号のデマンド化を推進します。</p> <p>KPIとしましては、世代間交流事業数とふれあい号の利用者数を考えております。</p> <p>2番目の空家対策の推進につきましては、主な取り組みとしては、空家対策事業なのですが、これは今年度先行型として実施している事業です。</p>

K P I としましては、空家調査の実施、空家バンクの登録件数を考えております。

3番の地域防犯防災力の強化につきましては、K P I については、消防団員数、災害時応援協定数を考えております。

次の4番の公共施設等の戦略的な維持管理につきましては、次のページに移りまして、K P I として、公共施設実態調査の実施、クラウド化の実施、このクラウド化というのは、白河市を中心とした定住自立圏構想の中で、共同クラウドを検討しておりまして、村の情報基幹システムのクラウド化を検討しているところです。

続きまして、大きな枠組みの2番目が医療と福祉の充実連携になります。

具体的な施策としては、介護離職ゼロの推進としまして、村に地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護地域密着型特別養護老人ホームの整備を整備する事業者に対して優遇措置を検討します。

K P I としましては、小規模多機能型居宅介護事業者数を考えております。

2番の地域医療の充実につきましては、南東北診療所への支援を主な取り組みとしまして、K P I としては、広域的医療機関との連携事業数を考えております。

3番の地域における福祉の支えあい活動の推進としまして、K P I はボランティアリーダーの育成数、ボランティア団体数を考えております。

簡単ですが、以上で説明を終わります。

小林委員長

只今、安心をつくるということで、事務局から説明がございましたが、この点について委員の皆さんから何か。

ないようでございますので、一番、最後、基本目標の5、まちをつなぐの説明を受けて、総合的に皆さんから意見を拝聴するというところで、事務局、説明して。

総務課企画財政グループ主任主査

はい。最後のページ、基本目標5、まちをつなぐになります。

ここで資料の訂正をお願いしたいのですが、数値目標として、交流都市数とあるのですが、これは間違いでございまして、村の方では、先ほどご説明したように白河市との定住自立圏の共生ビジョンが策定されておりまして、共生ビジョンの事業数に変更したいと思います。訂正をお願いします。

数値目標が共生ビジョンの事業数になりまして、基本的方針としましては、地域間連携を推進することで地域の問題解決を図ります。

<p>小林委員長</p>	<p>施策の枠組みとしましては、地域間連携の推進。 具体的な取り組みとしましては、白河定住自立圏構想を推進しまして、白河定住自立圏の共生ビジョンの事業を取り組んで行く形になります。 K P I の方も、白河定住自立圏共生ビジョンの策定ではなくて、推進にしたいと考えております。 以上で説明を終わります。</p> <p>ありがとうございます。今、一番、最後の基本目標5のまちをつなぐということで説明を受けましたが、このまちをつなぐだけではなくて、1から5を踏まえて、皆さんから何かご意見がございましたならば。 委員の方からは先ほどから意見がでていますが、村長さん、それを踏まえて、お気づきの点をお願いいたします。</p>
<p>村長</p>	<p>はい。いろいろと方向性について、貴重なご意見いただきまして、ここに色々なことを議論して肉付けしていくと、結構まとまっていくのかなと思ったのが実感でございます。</p> <p>今、最後のまちをつなぐまで、色々、方向性について申し上げましたけれども、これらについては、方向性については、本当に具体化しようという思いで、ある程度具体的な、例えば、地域密着型の介護云々というものを、今、現実に公募をいたしておりまして、すぐ、この近くに介護施設を事業者から応募を受けてやろうというのが、現実化しております。</p> <p>そのことによって、住民サービス、福祉を提供しようと進んでおります。</p> <p>ですから、この5までの中で、色々な方向を考えていくということで、なおかつですね、今、皆さんから色々なお話があったこと、このことを、具現化できればいいのかなと感じておりました。</p> <p>先ほど、あの、民報の古川支店長からお話ございました、ナマズ、これ、なかなか可能性があるのではないと、これから事業者が進めて行くということなので、非常に期待をしているところなのですが、お話しを聞いていて、川俣の話のを伺いましたけども、このシリーズを上手く利用しながら、何か発展する方向はないのかなと思いました。</p> <p>というのは、やはり他所がやっていないから話題性が出るのですね。そういった意味では、ナマズ、昔、食べた方がいっぱいいるのですね。何か懐かしさもあって、実際、今日、てんぷらとか、食べ</p>

てもらいますけど、結構、唐揚げとか、美味しいそうなのですね。

そうすると、その方も話題になる。そして、例えば、よく雑談で話をするのですが、アメリカザリガニなんか、美味しいようなのですね。この辺では食う習慣がないのですね。あれは、物凄く美味しい。普通のエビと区別がつかないという。

ですから、その辺もシリーズで一緒に上手く、そういったことを考えていったら、できるのではないかなと。そうするとその辺が一緒になって、色々なものがあそこでは、食べられる。しかも、美味しいのだという方向。ドジョウからなにか色々あると思うのですが、そんなところを発展させていくと、もっとおもしろいシリーズ的なもので、話題性もでて、特産品にもなり得るのかなと感じました。

それから、農業短大の味戸部長さんの話で、起業家の学生の例がでました、そういった方々が地元の人、あるいは近隣の方々もそういった思いを持っていると思うのですね。

ですから、私は、村の中で今、農地なんか相当余っていたり、あるいは貸していただけたところも、結構ありまして、実はつい最近も、三村委員のところの土地を何とか提供してくれということで、畑をですね、じゃあ、前向きに考えましょうという言い方をしていたのですが、そういった所を、村で借り上げて、そしてそこで、何か付加価値のあるものを作っていこうということまでは、考えているのですけども、ただ、そこに施設的なものですね、そういったものまで提供するとか、農業法人を村で作っていくことが、肉付けされてればということなのですが、事業化するとなるとなかなか難しい問題があって、というのはやはり、役所で、余裕がある施設整備の、余裕があればいいのですが、なかなか、補助事業なんかを上手く活用しながら、そういった形に持っていければ理想なのですが、それで、働く人を募集する提供するところまで、結びつけられれば、一番いいのですが、お金の問題が、ちょっと心配があるというところですよ。

東邦の佐藤さんからもお話がありました。Uターン者、確かに少なくなくて、私の周りも、いったん出て、都会で職を見つけて、落ち着いちゃっている人がいっぱいいるのですね。

で、本人にとっては故郷でもあるし、雇用の場があれば帰ってきたいという人は、随分、私はこういう立場であるので、そういう所があれば、帰ってきたいという人はいっぱいいるのですね。

もったいないのですが、じゃあ、一般の製造業とか紹介しますよと言ったときに、今の30代半ばぐらいとか40近くになっている方

の生活保障、そっくり保証するだけの企業がこちらにあるかと、希望するような企業があるかということ、そこでミスマッチがでてくるということなのですね。

私は、その辺でいつも思っているのは、今、国の方で本社機能を移転すると税制面で優遇すると、色々考えているようすけども、その辺を積極的にやって、本社機能があるような、あるいは本社機能を移転しようと、ひよっとすると秋山錠剤さんも考えてくれるかもしれません。

そうなると思う方々を呼び込めるなんて、感じをもっているのですが、村の力だけでどれだけできるか、若い方は比較的、取りあえず、企業に働きかけてお願いしたいということで、呼び込むことは可能かもしれませんけども、満足する企業とマッチングするかなと、その辺が上手くいけば、まさしくその通りだなと感じております。

山田委員の考えもごもつともで、経験も踏まえながら、まずは、泉崎に住んでもらおうと昔から考えているのですね。

雇用促進住宅が3千万くらいで、数年前に泉崎に提供していただきました。

それまでは制約があったのですね。それこそ、家賃から何から色々制約があるというのが国の制度なのです。今は、譲り受けたものですから、もう、幾らでやろう。3万ちょっとくらいで基本額を設定しているのですね。で、子供1人いると5千円ずつ引きましようというようなことをやって、2万くらいで住めるところがいっぱいあるのですね。

今は、お陰様で随分うまっている。何件かくらいしか、空いていないのですね。

そんなことで定住してもらえれば、山田委員が言われたような考え方になっていくのかなと思っています。

できれば、下條村でやっているように、自前で建物を建てて安く提供するというやり方が、1番その、今の話に合うやり方が出来るのですけども。資金が先なものですから、これで成功しているのが長野県の下條村なのです。

どんどん呼び寄せて、実際の仕事は10キロ先の仕事場に行っているのですけど。そんなことで3万ちょこっとくらいに住ませるのですね。それも立派なマンションと言われるところなのです。

それが出来れば理想かなと思っています。手をこまねいているだけでなく考えていきたいなと思っています。

あとはお客さんを呼べる、あるいは魅力を出す拠点として、ここ

のさつき温泉もあると思っています。ただ、じゃあ、それだけで、ここも周囲に伸ばすことも考えていきたいなということで、その辺の意見も聞ければなど。

そして、既存の鳥峠、これについてもやっぱり、真剣に村の観光施設のない中で、あるいは観光地と言われる所の少ない中で、やはり、鳥峠というのは伝統あるところなのですね。

何とか考えたいということで、私は何年か前からとにかく、一番頂上に行ったときに、祠、神社もかなり歴史のあるもので、物凄い彫り物がしてあるのですね、その辺を上手くアピールして、魅力あるものにしたいなという思いもあるし、私、1番考えているのは、頂上に行ったときに、360度、見渡せる環境を作りたいなと、今は本当に見えないのですね、木が生い茂ってしましまして、昔は、50年、60年前は、商工会長さんもいらっしゃいますけど、もっと眺望があった記憶があるのですね、物凄くすっきりするのですね、上に上がると。

それが50年60年過ぎるとどんどんと樹木が伸びちゃって、眺望がきかない、あれを何とかその、パノラマ的に綺麗にできないかなと、常に考えているのですが、思い切ってお金をかちやおうかなと思ひもあるのですが、そのへんとか、先ほどの、照明のことも考えて、あそこを観光地化するのも、一つの手かなと感じました。

その他、いろいろご意見を頂いていますけども、それを、先ほど言ったように、肉付けしながら、方向性をもっていければなど、ですから、子育て支援についても、この委員会で、例えば、幼稚園、隣の中島村がもう始まったのだから、無料化してはどうだ、という意見がいただければ、真剣に考えていきたいなと考えておりますので、財源はようやく2年前に再建になって、安定しつつあるなというところなのですが。

正直なところ余裕がなく、貯金がいっぱいあるわけではないので、そのところは辛い所なのですが、しかし、貯金ができるまで待ってまいしょうという、遅れを取るという恐れもありますから、そのへんを上手くバランスを取りながら、やれる可能性のあるところは、どんどんやっっていこうと思っています。

教育の問題は、本当に大事だと思っています。そのところは、私は確認して、安藤さんが言われたように、確認してやって行きたい。

やっぱり若い人、子供の教育に熱心でありますし、人づくりは、1番大事なところと思っていますので、これから、確認してやって行きたいなと思っています。

小林委員長

いろいろ言いたいことはあるのですが、これからですね、皆様方のご意見を拝聴しながら、実現できればなと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

今、村長さんの方から予算に絡む思いですとか、お話を聞いたところでございましたが、独自幼稚園の無料化、これは中島村さんとかで始まったという所で、大変、村長も心に留めているのですね。

やっぱり、そのくらいの施策をしないと、この子育て、矢吹町は、ちょっとこの前、お話を聞きましたら、子育て支援課を平成28年度から、新たに課を設置するというようなことをお聞きしています。

この会の委員の皆さんから、この次でも構いませんから、人口減少は深刻な問題だよ、少子化は深刻な問題で、一時80人、90人いた、出生率は、今、20人か40人くらいだよ、本当に今、待ったなしの問題だと思う。

だから、例えば、保育所、幼稚園を完全無料化すれば、年間どれくらいの金がかかるのだ、ということまで、村長は心配をしている。

ですから、この会の皆さんから、地域創生の皆さんから、こういう話が、多くでたという形になれば、村長さん、仕事としてはやり辛い、いや、やり良いのかなと思っておる所でございます。

ご意見と言っても、1から5まで、事務局の説明を受けました。

そして、ただ今、村長さんのお話も聞きました。いろいろ皆さんもやっぱり、思いはあると思うのですね。

それは、ナマズを食べながら、皆さんから本音を出して、村長、こうだよ。副村長、こうだよ。ということにしたいと思いますが、ご異議ございませんか。よろしいですか。

本日は、皆様から大変貴重なご意見を頂きました。ありがとうございます。

人口ビジョンとは村の総合振興計画を踏まえ、戦略人口とその実現を前提とした将来の泉崎村を示すものになっており、総合戦略は人口ビジョンにおいて設定された将来人口規模（戦略人口）を達成するための、人口戦略となるものでございます。

本日は、皆様方ら頂戴しました意見を素案の中に反映させ、次回の会議において、今一度、調整を図っていただければと思います。

なお、この後、意見交換会が設定されておりますので、更なる忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いと思います。

以上をもちまして、すべての議事を終了させていただきまして、委員長ごの任を解かせていただきます。ご協力、大変ありがとうございました。

<p>司会</p>	<p>—今後のスケジュール—</p> <p>小林委員長、ありがとうございました。事務局の方から、今後のスケジュールにつきまして、ご連絡を差し上げたいと思います。</p> <p>今後のスケジュールでございますが、第3回の会議を来年1月21日木曜日、午後1時30分から役場2階議場でおこないというふうに思います。</p> <p>その中で、泉崎村人口ビジョンの最終確認をさせていただきたいと思います。</p> <p>本日、ご説明申し上げました中身で32ページ以降、こちらの数値目標、あるいは表現等といったところの、最終の詰めをさせていただきます。させていただくという形にしたいと思いますので、今一度、内容の確認等をお願いしたいと思います。</p> <p>また、総合戦略、こちらにつきましては、今ほど、ご意見をいただいたところでございますが、再度、中身を詰めさせていただきまして、施策あるいは取り組みの内容につきまして、最終的な調整をさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。</p> <p>更に第4回目、こちらにつきましては、来年2月22日月曜日になりますが、午後1時30分から同じく役場2階議場におきまして、会議を開きたいと思います。</p> <p>この4回目の時に最終確認という形で、資料を提供したいと思っておりますので、よろしくお願いたします。</p> <p>—閉会—</p> <p>それでは、以上をもちまして、第2回泉崎村地域創生・人口減少対策委員会を閉会とさせていただきます。本日はありがとうございました。</p>
<p>司会</p>	